

## イチゴ炭疽病の薬剤感受性検定結果

農業研究部

### 1. 研究の背景

「ベリーツ（大分6号）」は県オリジナル品種として、生産現場において品種転換を進めているところであるが、現地では炭疽病が多発し、防除に苦慮している。そこで、本病に効果的な薬剤を選定するため、薬剤感受性検定を実施した。

### 2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ・セイビアー20フロアブル及びジェットフェンカルブを含む剤（ゲッター水和剤、ニマイバー水和剤）は、イチゴ苗を用いた薬剤感受性検定において、炭疽病の発病程度が低い傾向が確認され、本病における基幹的防除薬剤として選定した。
- ・薬剤の使用に当たっては、今後の感受性低下の危険性を防ぐため、予防散布の実施や、過度な連用の回避等が望ましい。

表1 各種薬剤処理における炭疽病の発病程度

処理区	無処理	PP殺菌剤				QoI剤				ジェットフェンカルブ系				ベンゾイミダゾール系											
		セイビアー20フロアブル				シグナムWDG				ニマイバー水和剤				ゲッター水和剤				ベンレート水和剤							
菌株	反復	1	2	3	平均	1	2	3	平均	1	2	3	平均	1	2	3	平均	1	2	3	平均				
東部1	7日後	2	3	4	3.0	0	0	0	0.0	2	3	2	2.3	0	0	2	0.7	0	2	0	0.7	4	3	3	3.3
	14日後	4	5	5	4.7	3	2	2	2.3	3	4	4	3.7	2	2	2	2.0	0	2	0	0.7	6	5	4	5.0
豊肥1	7日後	2	3	3	2.7	0	0	0	0.0	2	2	2	2.0	0	0	0	0.0	0	2	2	1.3	3	3	4	3.3
	14日後	4	5	5	4.7	0	2	0	0.7	4	6	6	5.3	1	1	1	1.0	0	2	2	1.3	4	5	6	5.0
豊肥2	7日後	2	3	2	2.3	0	0	0	0.0	3	2	0	1.7	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	1	0	1	0.7
	14日後	4	5	3	4.0	0	0	0	0.0	5	4	4	4.3	2	2	3	2.3	2	2	0	1.3	4	3	3	3.3
豊肥3	7日後	2	0	3	1.7	0	0	0	0.0	0	2	0	0.7	0	0	0	0.0	2	0	0	0.7	0	2	0	0.7
	14日後	3	3	3	3.0	0	2	0	0.7	2	3	0	1.7	0	0	2	0.7	2	0	0	0.7	0	2	0	0.7
北部2	7日後	3	2	3	2.7	0	0	0	0.0	2	2	3	2.3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	2	2	1.3
	14日後	4	3	4	3.7	0	0	0	0.0	2	2	3	2.3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	2	2	1.3

発病程度

7:株全体の病斑面積が70%以上 6:株全体の病斑面積が50~70%未満 5:株全体の病斑面積が30~50%未満

4:株全体の病斑面積が10~30%未満 3:株全体の病斑の面積が10%未満

2:斑点状からえそ症状が進展したものが散見される 1:葉身、小葉に斑点症状が散見される 0:発病を認めない

※色つきのセルは効果が低かった結果を示す。

### 3. 期待される効果

産地の防除指導に活用できる。

### 4. 担当機関連絡先

農業研究部 病害虫対策チーム

TEL: 0974-28-2078

住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8